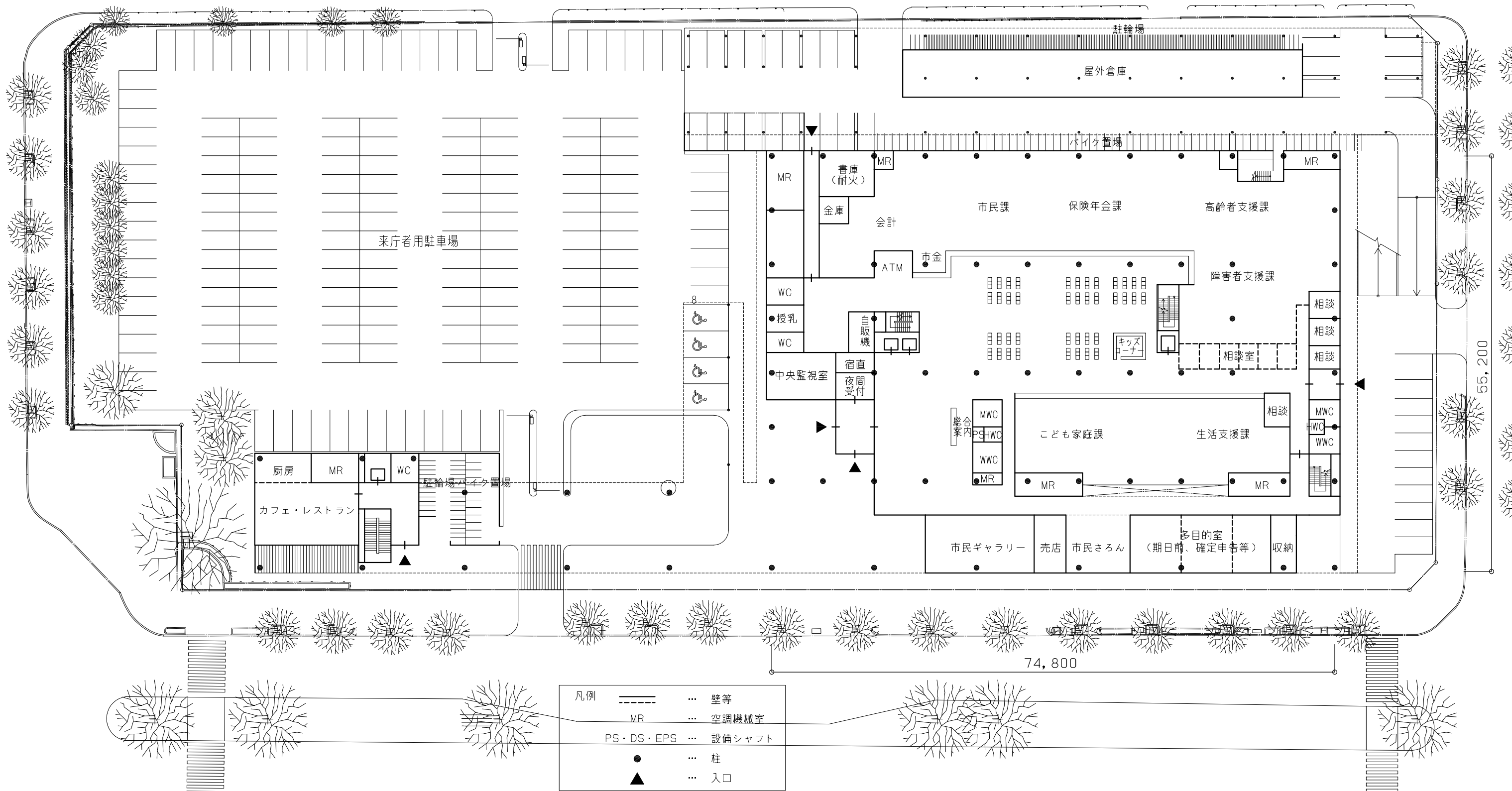
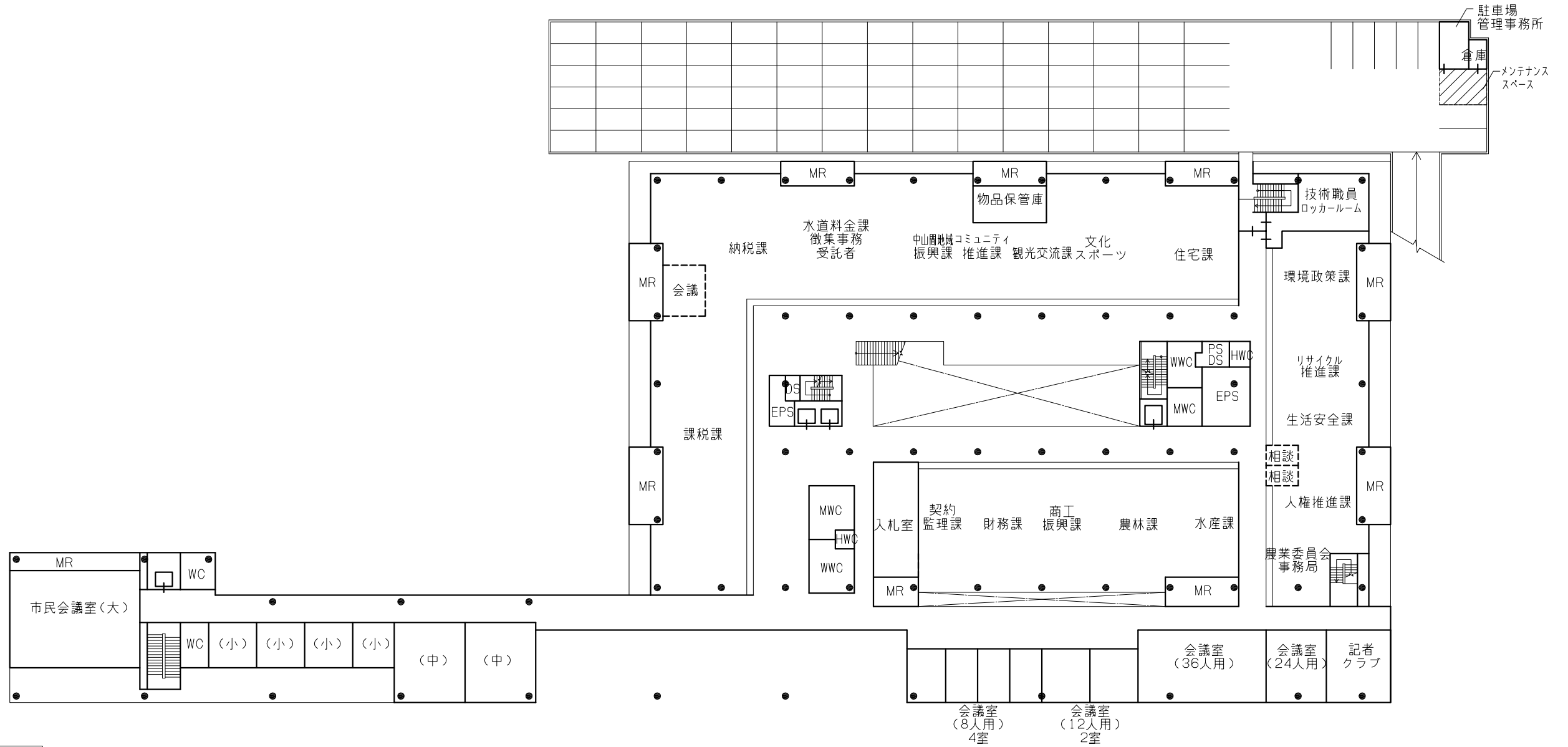


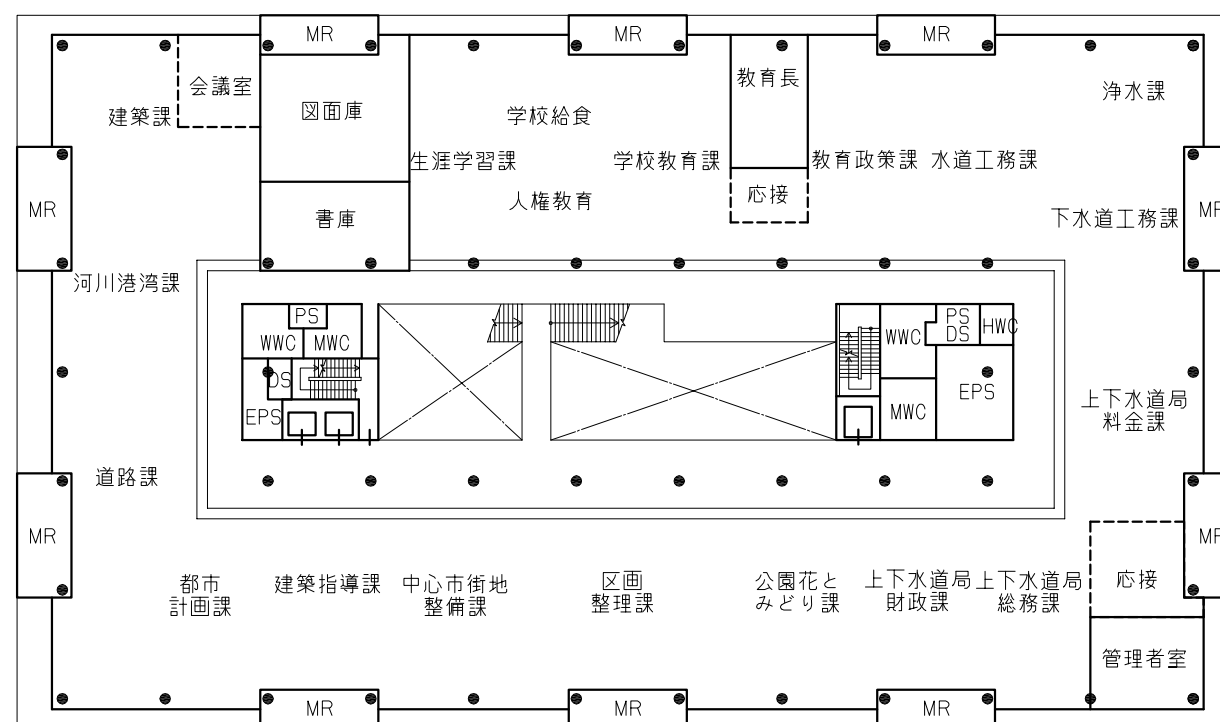
1 配置計画、階構成、平面計画等 設計(案)



1 配置計画、階構成、平面計画等 設計(案)

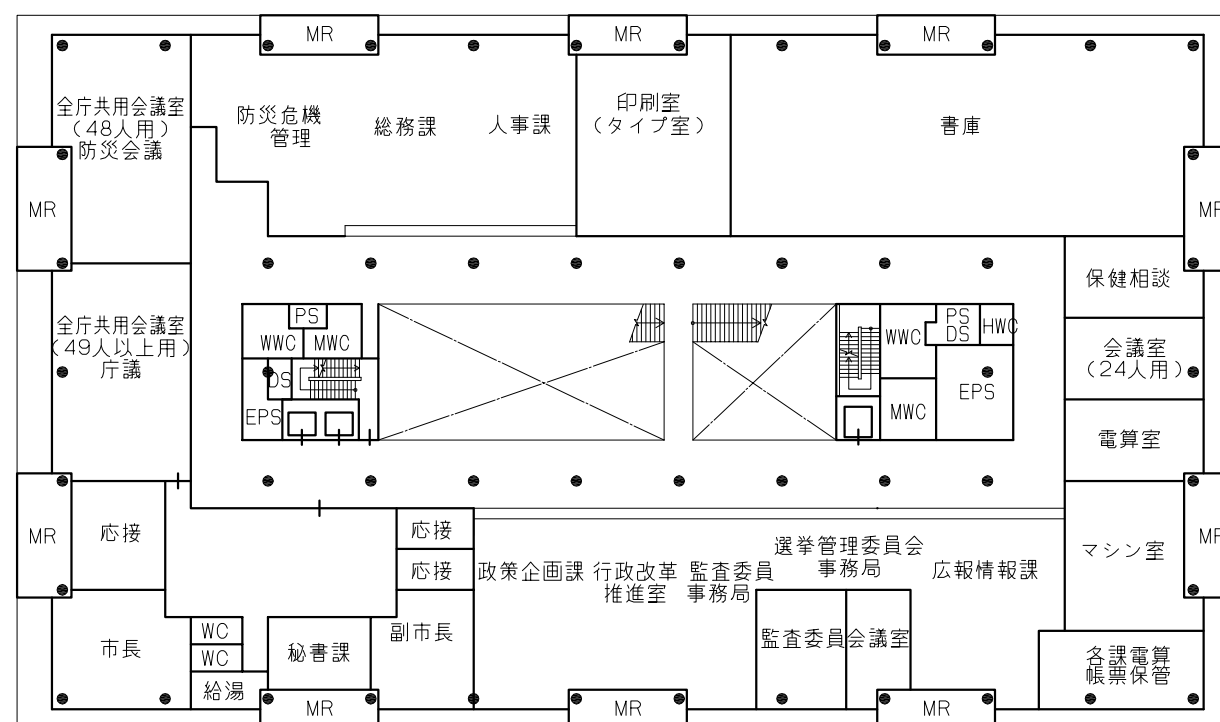


1 配置計画、階構成、平面計画等 設計(案)

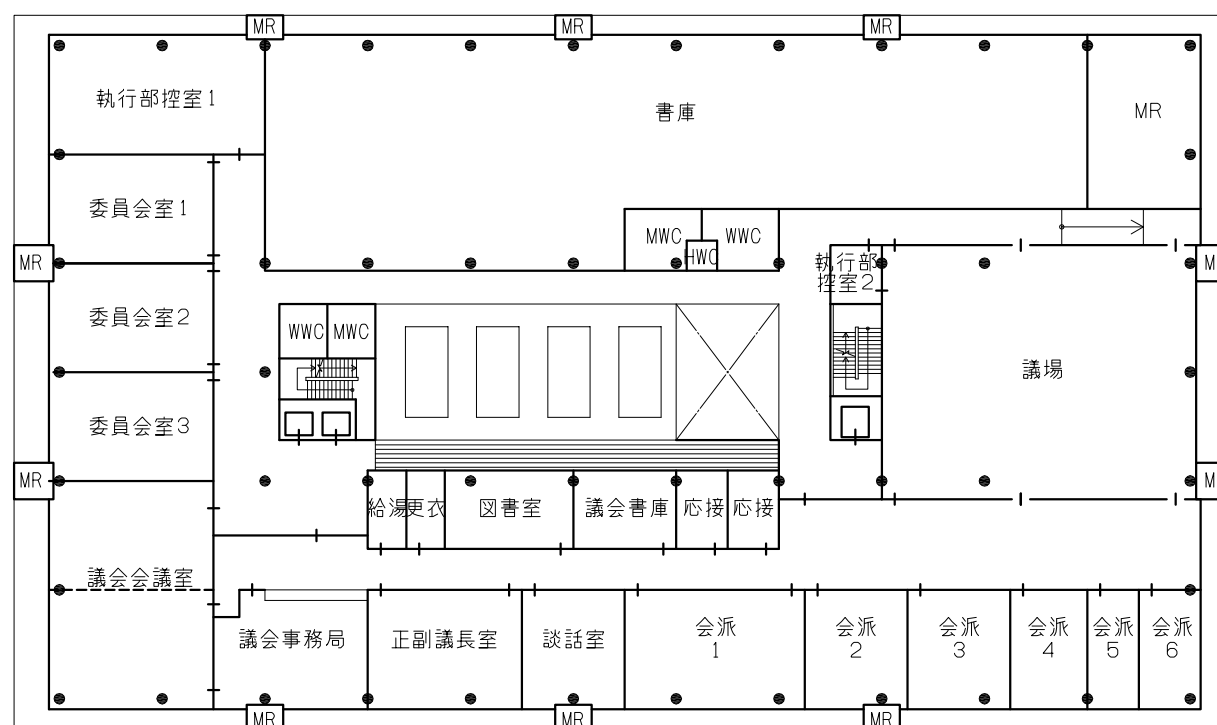


|    |           |          |
|----|-----------|----------|
| 凡例 | -----     | … 壁等     |
|    | MR        | … 空調機械室  |
|    | PS・DS・EPS | … 設備シャフト |
|    | ●         | … 柱      |
|    | ▲         | … 入口     |

1 配置計画、階構成、平面計画等 設計(案)



1 配置計画、階構成、平面計画等 設計(案)



|    |           |          |
|----|-----------|----------|
| 凡例 | -----     | … 壁等     |
|    | MR        | … 空調機械室  |
|    | PS・DS・EPS | … 設備シャフト |
|    | ●         | … 柱      |
|    | ▲         | … 入口     |

1 配置計画、階構成、平面計画等 設計(案)

|   | A案<br>口の字型執務スペース<br>(分散コア、吹抜けあり)  | B案<br>口の字型執務スペース<br>(中央コア、光庭あり)   | C案<br>中廊下式 2分割執務スペース  |
|---|---|---|---|
| 市庁舎に求められること                                 |   |   |   |
| 1 明るさ、気持ち良さ                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイサイドライトから採り入れる自然光により、来庁者ゾーンが明るい。</li> <li>・廊下に面する吹抜け空間により来庁者ゾーンが開放的で気持ちの良い空間になる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下等の来庁者ゾーンに、部分的だが光庭から自然光を採り入れることができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中廊下式のため、廊下や窓口等の来庁者ゾーンに自然光が採り入れられず、人工照明に頼った環境になる。</li> <li>・開放感がなく、視覚的にも息苦しい空間になる。</li> </ul>                    |
| 2 案内性、見通しの良さ                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹抜けを介して上下階でも見通しが良く、エントランスロビーから施設の全体像と目的階の様子を体感的に理解できる為、来庁者への案内性が良い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体感として他階の様子が解らない為、A案に比べて案内性が悪い。</li> <li>・中央のコアが視界を遮り、同一フロア内でも見通しが悪い為、サインに頼った案内となる。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体感として他階の様子が解らない為、A案に比べて案内性が悪い。</li> <li>・同一フロア内では見通しが効く為、案内性は良い。</li> </ul>                                     |
| 3 平面計画の合理性                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・執務スペースが口の字型に連続する為、レイアウトの自由度が高く、各部課間の業務関連度に応じた合理的な配置が可能。</li> <li>・庁舎全体の面積(2万㎡)に対して、A~C案の執務ゾーンとして確保できる面積は全て同じ。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・執務スペースが口の字型に連続する為、レイアウトの自由度が高く、各部課間の業務関連度に応じた合理的な配置が可能。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・執務スペースが2つのエリアに分かれる為、同一の部課が分断される恐れがある。</li> <li>・1フロア当たりの執務ゾーンの面積がA,B案に比べて小さくなり、レイアウトの自由度が下がる。</li> </ul>        |
| 4 執務スペースの一体感、連携の取り易さ                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一フロア内での見通しが良く、空間的な一体感が強い。他部課間とのコミュニケーションが促進され、業務効率上がる。</li> <li>・吹抜けによって他階の部課の様子も認識できる為、業務の連携がし易い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央のコアが視線を遮り、対面する執務ゾーンとの連携が取り難い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一フロア内では見通しが良く、執務ゾーンの一体感は強いが、一方で他階の部課とは連携が取り難い。</li> </ul>  |
| 5 吹抜けの有無による空調効率の違い                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が居ない吹抜け内部(床が無いエリア)に対して空調は不要な為、空調をする対象面積自体はA~C案は全て同じ。</li> <li>【夏期】吹抜け頂部に溜まる熱気は、居住域に漏出する前にハイサイドライトから適切に排出することが可能な為、空調効率に影響はない。</li> <li>【冬期】吹抜けエリアの1階では、床吹き出し空調で冬期の居住域を効率的に暖房し、冷気が溜まらない空調計画が可能のため、吹抜けが無い場合の空調効率との差が無い。</li> </ul> | —   | —   |
| 6 自然エネルギーの有効活用                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹抜けを活用した重力式自然換気により、中間期の空調エネルギーコストの削減が可能。</li> <li>・冬期の晴天時に吹抜けの頂部に溜まった暖気を、吹抜け循環ファンで吹き降ろす事で暖房補助が可能。</li> <li>・吹抜け上部のトップライトから自採光を採り入れ、吹抜け周囲の照明を消灯・減光することで、照明電力の削減が可能。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段のシャフトを活用した重力式自然換気により、中間期の空調エネルギーコストの削減が可能。</li> <li>・来庁者ゾーンの一部では光庭からの自然採光により、消灯や減光が可能。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段のシャフトを活用した重力式自然換気により、中間期の空調エネルギーコストの削減が可能。</li> <li>・現庁舎よりも執務ゾーンの奥行きが倍になる為、来庁者ゾーンは昼間も照明を消灯・減光できない。</li> </ul> |
| 7 吹抜けによるランニングコスト削減                          | 空調エネルギー : 約130万円/年 削減<br>照明エネルギー : 約20万円/年 削減   | 空調エネルギー : 約100万円/年 削減<br>照明エネルギー : 約10万円/年 削減   | 空調エネルギー : 約100万円/年 削減<br>照明エネルギー : 約0万円/年 削減  |
| 8 イニシャルコスト C案との差額<br>消費税10%込 ( )内は床面積あたり坪単価 | +約0.99億円(1.6万円/坪)   | +約0.68億円(1.1万円/坪)   | ±0億円  |
| 総合評価  | ◎   | ○   | △   |